

赴鎌倉也。若仍維平馳向于小原嶋大社
山毛左田之邊防戰及兩時維平被討取
畢兼任亦向于福山本之方到于津輕重
合歟殺戮宇佐義平次以下御家人乃雜
色澤安等云々依之在国御家人等面々
進飛肺言上事由云々海邊底の事と考
才又し是は記を今按るに海邊ハ河邊
の事也。或や河邊郡ハ山北の隣なり大
多賀郡府ハ奥州ハあり大方といふハ大
の事なり。古俗ハ昂り沼と云古人曰古高郡
ハ昂と云

山残あり或日山川の邊をとりて喰らひに咽頻よりとこを
を川ありは侵し其流を吞食せよとも飽く事を志すんそ後大
河不足北方飲天澤未至通渭而死棄其杖他爲鄧林十
といふとぞ山海經曰孝父與日逐を日入渭欲得飲飲於渭
河不足北方飲天澤未至通渭而死棄其杖他爲鄧林十
といふとぞ山海經曰孝父與日逐を日入渭欲得飲飲於渭
河不足北方飲天澤未至通渭而死棄其杖他爲鄧林十